

都市出版株式会社長兼「東京人」編集長

高橋 栄一
たかはし えいいち



敬愛する伝記作家・小島直記さんに『志 かつて日本にあったもの』（新潮社）という著書がある。出版されたのは平成七（一九九五）年。小島さんは当時の日本人が国家や社会に貢献するという「志を失い、私利私欲しか考えなくなったことを強く嘆いた。

ここでは、あえて二冊の本を紹介したい。伝記ではないが、その風味を多分に発散する作品である。

一つは馬場錬成氏の『物理学校』（中公新書）、いま

志を読む

ひとつは志茂田昌樹氏の『蒼翼の獅子たち』（河出書房新社）。前者は物理学校（現東京理科大学、後者は専修大学を創立した明治初期の青年たちの物語である。

物理学校の創立は明治十四（一八八一）年、東大の物理学科を卒業した二期生から三期生までの若者十九人を中心とする総勢二十一人の学徒たちが、「国の繁栄は科学技術が基礎」との信念に燃え、学校を創り、理学の普及にまい進した。一方の専修大学は明治十三（一八八〇）年の創立。不平等条約の改正や近代化を図るには、欧米の法律学や経済を学び、国際的に対等な関係を築くための人材の育成が不可欠との信念に燃えた米國への官費留学生四人が中心になって設立した。

当時、先端の学問を習得するには、まず外国語を学び、それから専門に入るのが必須だったが、それでは苦勞が多く、習得に時間がかかる。日本にはそうした時間的な余裕はない。日本語で学べるようにし、有為な人材を養成することが両校の使命だった。彼らは、無給どころか、決して多いとは言えない本業の給与から会費を払い、専門用語を日本語に翻訳した辞書を作り、本業の後で夜間に教壇に立った。専修大学創立メンバーがエール大学近くの酒場で、「学校を創ろう」と誓うシーンは感動的だ。

波乱万丈の生涯も面白いが、そうした志に感動できるのも、伝記の魅力である。

一九五六年、東京生まれ、早稲田大学理工学研究所修士課程を終了。八一年東芝入社。八六年に雑誌編集に転じる。東洋経済新報社などを経て九六年都市出版に入社。「東京人」「外交フォーラム」（二〇一〇年休刊）の編集に携わる。〇一年「東京人」編集長、〇二年より現職。〇八年より、早稲田大学大学院政治経済学術院非常勤講師兼務。



と しょ か ん こ う し ん 書 館 通 信

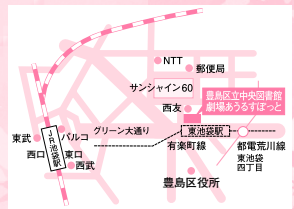
館 通 信

トピックス

- 巻頭言 都市出版株式会社社長兼 東京人 編集長 高橋 栄一・・・1ページ
- こらこらコラム ほほの学校長／編集者 河野 通和・・・1ページ
- 図書館と私 女優ともさそ衣・・・2ページ
- 生涯の一冊 廣瀬無線電機株式会社営業部主任 長岡 千里・・・2ページ
- この本カフェ・・・2ページ
- 東アジア文化都市2019豊島 豊島文化都市推進課課長 小池 章一・・・3ページ
- 池袋とヤミ市 東京理科大学工学部建築学科助教 石 樽 哲和・・・3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー・・・4ページ



発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライオンアリーナビル四階・五階 〒170-8442
電話 ●〇三三九八三三七八六
FAX ●〇三三九八三一九〇四
ホームページ ●http://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日 ●平成31年4月



新航路【49】

「東アジア文化都市2019豊島」がいよいよ開幕しました。2月1日の開幕式典には、観客2千人が東京芸術劇場コンサートホールを埋め尽くし、オープニングは日中韓の心をつなぐ歌「私は未来」を小学生、総勢150名が合唱しました。続いて、区の名誉区民であり、人間国宝の野村萬氏による奏上が披露され、豪華な開幕となりました。



野村萬氏による奏上披露

これを機に区立図書館では、関連図書資料の充実に向けて、新たに中国関連資料約3,500冊、韓国関連資料約600冊

図書館の「東アジア文化都市2019豊島」

を増やし、中国関連蔵書約13,000冊、韓国関連蔵書約2,700冊を揃えました。また、文化事業の一つである「マンガ・アニメ」関連の図書資料は、新たに約150冊を増やし、約9,000冊となりました。

6月22日(土)には、あうるすぽっと会議室で特別講演会を開催し、日本を代表するマンガ家で国際アート・カルチャー都市懇話会委員、(仮称)マンガの聖地としまミュージアム運営検討会議座長の里中満智子氏に「日本のマンガはなぜ世界に広まったか」についてご講演をいただきます。同時に5月25日から7月25日まで中央図書館5階特別展示コーナーで里中満智子氏の作品展示を行います。どうぞこの機会に、図書館の「東アジア文化都市2019豊島」もお楽しみください。

こらこら コラム

公共性のメディア

第8回

ほほの学校の校長／編集者 河野 通和

「顔の見える新聞」を考える討論会に参加しました。ひと昔前、新聞社に入社した新人記者は先輩諸氏から「自分を殺せ」と言われたそうです。客観報道の黒衣に徹しろと「匿名への情熱」を吹き込まれたわけです。最近のトレンドは、新聞社も記者も「もっと自己開示を！」になり始めています。すいぶん様変わりしたと言わざるを得ません。

一読者として「顔の見える新聞」を意識したしたのは、毎日新聞でいまも続く「記者の目」（毎週火・金曜日朝刊掲載）が誕生した一九七六年です。当時、学生でアパート住まいをしていましたが、この大型記者コラムを読みたい一心で、毎日新聞を購読することにしました。若手からベテランまでさまざまな記者が、署名・顔写真入りで長文のコラムに挑みます。読み応えがあり、書き手の個性や体温が伝わってきて、親しみを覚えました。記者個人の主張や見解を積極的に打ち出す姿勢は、いわゆる「発表ジャーナリズム」への訣別宣言でもありました。記者としての訓練を受け、確かな事実に基づく報道という大前提の上で、それをより効果的、説得的に伝えるために、「みずから顔と名前を明らかにする」手法が選ばれたのです。責任ある表現に、こうした誠実さや覚悟の表明が望ましいことは言うまでもありません。

最近では言論の「分断」やフェイクニュースが話題にのぼります。人類がながい時間をかけて、一步一步築き上げてきた信頼と共感の関係を切り崩すような不寛容な動きも広がっています。そうした現状をふまえた上で、「顔の見える新聞」とは何か、何をなすべきか、という議論でした。公共性に足場を置くメディアとして、人と人との「心」をつなぎ、新たな協力の目標を探し求める役割がいまほど求められている時代もないと言えます。新聞の話をしながら、ふと図書館の役割も少し似ていると感じていました。

生涯の一冊 (51)

オリンピック・パラリンピアン編



■小公女

バーネット/作 谷村まち子/訳
偕成社 1985年

廣瀬無線電機株式会社 営業部主任

長岡 千里 (ながおか ちさと)



兵庫県立姫路商業高校で陸上競技に没頭。天理大学体育学部へ進学し就職課程を経て卒業。金融会社へ就職したものの社会人3年目の2005年にボスレーと出会い、2006年トリノオリンピックに日本女子代表として初めての出場を果たす。現在は競技で培った精神力と体力を生かして社内では数少ない女性営業マンとして働く日々。

私が本と本格的に向き合ったのは、小学三年生のクリスマスに母が買ってくれた『小公女』。かわいらしい絵もなく、抑揚のある吹き出し文字もない。ただただ文字だけが縦に並んでいる。はじめは、「クリスマスプレゼントに小説?」と悲しい気持ちになったような気がする。やはりそこは子供なのだ。でもこれが転機だった。登場人物の表情や、景色、背景などが様々な事柄の頭のなかで繰り広げられ、想像が膨らみどんどん吸い込まれていく。入学してから行く事が無かった図書室にも通うようになり、休み時間を過ごしたものだ。洋書を好んで読むようになり、ミヒヤエル・エンデ

母がくれた本の世界

の『モモ』は「はてしない物語」は特に好きだった。洋書は登場人物の名前がカタカナなので、人物が多くると、相関図を書いて都度確認しながら読み進めていた。小公女の話しに戻そう。裕福な家庭に生まれながら、父の事業の失敗で急転直下の生活に変わる。女学院の生人として生きていく事になるわけだが、同級生からのいじめや大人たちからの嫌がらせ、ひどい生活環境。それらを乗り越えようと必死に前を向き、時にしりぞけそうになりながらも自分を信じて生きていく。彼女のその強さは私の理解を超えていた。最後は父の友人の助けで元の生活以上の環境に変わるわけだが、そこに辿り着くまでの壮絶な苦難を思うと心から嬉しかったし、報われたのだと安心した。そして強烈に感じたのが「優しさ」とは「強さ」

だということ。この本に出会って、本を読むきっかけになり、これまでたくさん本を読んできた。そのきっかけを作ってくれた母には感謝の気持ちしかない。子供心に悲しかった気持ちは置いて、改めてあげがとうと言いたい。私は何かに迷った時、「今しかできないことをやる」と決めていた。ボスレーでオリンピックを目指す時、決めた時もそうだった。自分で決めた事への責任感がい意味でプレッシャーになり、考え方、行動が決まってくる。いろいろな考え悩むよりも、その方が性に合っている。この考え方は本からも影響を受けている。これからも自分に必要な本の出会いにワクワクしながら、ジャンルに縛られず本が教えてくれる世界観を人生の糧にしていきたい。



図書館と私 38

女優
ともさと衣

【プロフィール】
舞台を中心に活動。近年あうるすぽっとにて、年に一度「絵本読み聞かせワークショップ」講師。二児の子育て奮闘中!



放課後の思い出

あれは高校1年生の秋だった。放課後、いつも通り私は図書室にいた。その日はなぜか誰もいなかった。当時福岡に住んでいた私は、演劇などほとんど観たこともなく、テレビで野田秀樹の「鷹作・桜の森の満開の下」という劇場中継を観てビックリ仰天、天国のようであり悪夢のようであり、原作の坂口安吾の文体は物凄く魅力的でいっぺんで虜になった。その日も夕暮れ時のまだ薄明る中、地べたに座り込んで夢中で安吾を読み耽っていた。すると「ガチャ」と音がした。なんだ? 誰か来たのかな、そう思い、私は図書室の入り口に行き、驚いた。鍵がかかっている! 開かない! いや、中からは絶対開けられるはずだ、落ち着け…えー開かないよ、どうしよう! ここ3階だよ、窓から飛び降りる? 無理だよー、叫べば誰か気づいてくれるよね、おーい、おーい、おーい…こんな時に限って誰も通らない。え、もしかして本当に誰も気づかないんじゃない? 明日までこの図書室

にひとりぼっち…でも。私、図書室でならいくらでも時間は潰せる。潰せるどころか、ここは私の大好きな本であふれている。嗚呼、今夜図書室は私もの! 坂口安吾の小説を制覇しようか、アガサ・クリスティのポワロを読もうか、野田秀樹について調べてみようか、小学生の時、児童版で全巻読んだ江戸川乱歩を読み返そうか、いや待てよ、あれは挿絵も内容も怖すぎる、この状況で見るのは無理だ! お腹が空いたら申し訳ないけど本を破って食べよう。いやいや、一晩くらい何も食べなくて大丈夫でしょ!? 私はあらゆることを考え、ワクワクしはじめていた。しかし「ガチャ」、図書室の入り口はすぐ開いた。鍵をかけた人がなにかおかしいと感じて戻ってきたのだ。私は無事図書室から出た。短くて長かったこのときのドキドキとワクワクを、今でも鮮明に覚えている。嗚呼、図書館がまるごと私のものになったら! 今でもそんなことを想像して、にやにやしている。

Café KONOHON この本カフェ

「春眠晓を覚えず」(「春晓」孟浩然)の季節ながら、新学期や新年度のスタートの時期でもあり、眠いなどは言っていない。鳥のさえずりで起こされるよりも、よい目覚めを運んでくれる本を読んで、新しいことにチャレンジしよう!

◆ 今回のテーマ ◆

目覚め



17 杯目

書名 『魂萌え!』

桐野夏生/著 新潮社(新潮文庫) 2006年

59歳、平凡な専業主婦敏子は、夫の突然の死により今まで無縁だと思っていた人生の様々な難問に直面する。

10年も前から夫に愛人がいた事。気持ちの通わない息子からの一方的な同居話。遺産相続を主張する子供達。そして、その問題を解決するすべを持たない自分。今までの甘さや世間知らずを思い知らされながらも、敏子は考え、迷い、決断する。まさに、受け身の人生からの目覚め。

人生100年時代なんて言葉を目にする昨今。10年以上前の物語だが、今でも私達に目覚めた時の痛みと立ち向かう勇気を教えてくれる。第5回婦人公論文芸賞受賞作。 ◎【古川 依子(ふるかわ よりこ)】



書名 『野生ネコの教科書』

ルーク・ハンター/著 プリシラ・パレット/絵
山上佳子/訳 今泉忠明/監修 エクスナレッジ 2018年

猫は嫌いだ。腕と足をひっかいたいたいけなやつだからだ。なのに、演劇で野良猫の親分の役がきた。仕方が無い。ならば奴らの有り様を暴いて、なりきってやる。手にしたのがこの「教科書」。

分類、形態、生息環境、食性、寿命、その生態等が綿密な観察の基に解説されている。写真が捉えた獲物を狙う鋭い目、ピンと張った耳、しなやかな身のこなし。猫の様々な表情は、ドーランを塗って舞台化粧をする際のお手本になった。目覚め始めたものは、猫? それとも演劇? ◎【三瓶 裕裕(さんべい ゆうか)】



書名 『iPS細胞を発見 山中伸弥物語』

上坂和美/著 PHP研究所 2017年

ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さんの物語です。彼は、たくさんの挫折を経験します。しかし、自分の意志の強さと周りの人の協力により、ヒトiPS細胞を発見します。iPS細胞はあらゆる細胞に変化出来るので、難病で苦しむ人の光となりました。彼は特許を取り、誰でもそれを利用できるようにしました。さらに今、研究者が長期で働くことが出来る環境も整えようとしています。子供たちだけではなく、大人も希望と勇気を貰える本です。 ◎【廣田 玉恵(ひろた たま恵)】



寄稿者はしまこコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。マナビトゼミ担当の人類学者佐藤 杜広氏の監修のもと、毎回テーマに合わせて文学、児童書、評論や科学などの分野からお薦め本を1冊紹介しています。

シリーズ(全4回)

東アジア文化都市 2019豊島

第1回 東アジア文化都市とは



豊島区文化商工部
東アジア文化都市
推進担当課長

小池 章一

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・连带感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としています。

横浜市(2014年)、新潟市(2015年)、奈良市(2016年)、京都市(2017年)、金沢市(2018年)に続き、豊島区が6番目の日本の代表都市として東アジア文化都市事業に取り組んでいます。2019年2月1日、東京芸術劇場で開幕式典を開催し、中国西安市、韓国仁川広域市と日本豊島区の3都市が一堂に会してそれぞれの都市から派遣された芸能団によるステージパフォーマンスを披露しました。11月24日には新しくオープンするHarza 池袋芸術文化劇場で東アジア文化都市2019豊島を締めくくる閉幕式典を行います。

交流都市紹介

▼西安市(中国)

中国西北部地方の政治・経済・文化の中心地。シルクロードの東の起点として栄えた都市で、旧名は長安。紀元前11世紀から約2000年の間に、秦、漢、隋、唐など12の王朝の都でした。紀元前3世紀には、秦の始皇帝が万里の長城や壮大な墓を残し、墓を守る兵馬俑は西安最大の歴史遺産となっています。



西安市・大唐芙蓉園

▼仁川広域市(韓国)

韓国西北部の黄海に面した韓国を代表する港湾都市。国際交易港である仁川港の繁栄とともに発展。2001年に開港した仁川国際空港によって新しい韓国の空の玄関口として、東北アジアの交通のハブ、国際物流の中心都市として注目されています。人口は、ソウル、釜山に次いで国内第3位となっています。



仁川広域市・仁川松島国際都市の夜景

▼マンガ・アニメの発信拠点として

豊島区は「マンガ・アニメ」の発信拠点として注目を集めています。さらに区内で特に盛んに行なわれている「舞台芸術」「祭事・芸能」とともに魅力的な新規事業・日中韓交流事業を立ち上げます。交流の視点を盛り込み、区民としての韓の方々を含めた多文化共生を推進させていきます。



東アジア文化都市 2019豊島
都市は、劇場だ。文化で豊島の幕が開く
2019年としま開幕!!!

▼次世代を担う子ども向けの事業を充実

「10000人で歌う『わたしは未来』プロジェクト」を始めとして、子ども達を対象にした舞台芸術×マンガ・アニメ部門横断事業や、中国西安市、韓国仁川広域市と豊島区の3都市共同で行なう青少年文化交流事業など、「未来を担う人材の育成につながるプロジェクトを多数展開します。」



東アジア文化都市2019豊島、開幕式典にて合唱「わたしは未来」を歌う子どもたち

次回から、東アジア文化都市 2019 豊島の3つのテーマ「舞台芸術」「マンガアニメ」「祭事芸能」について紹介していきます。

池袋とヤミ市(全4回)

第1回 池袋駅とヤミ市

石樽 督和(いしくれ・まさか)

今どこそ池袋は東京の巨大ターミナルの一つとして、駅を中心に繁華街として多くの人を集めているが、戦前は東京のなかでも場末で、山手線のなかでも池袋よりも隣の大家の方が都市として拓けていた。そんな池袋が副都心としての機能を備えるようになった契機は、戦後復興期のヤミ市の成立とその発展であったと言われている。

現在の東武線と西武線につながる後背地に肥沃な農業地帯を持っていたことから、池袋のヤミ市は農作物を中心とした食料品の集散地として賑わった。池袋のヤミ市は駅の東西に広がっていたが、その成立には大きな違いがある。

東口では戦中期に交通疎開空地となっていた駅前土地に、テキヤの森田組が戦前に貴族院の議員であった松本学とともに一九四六年二月から八棟二五〇戸の店を持つ森田組東口マーケットを建設している。森田組は西口でも同様にマーケットを建設しているが、西口で最も大きなヤミ市ができたのは豊島師範学校の焼け跡で、複数の主体が入り乱れてヤミ市を形成していくこととなった。ここでは、元都議会議員をはじめ複数の主体が同地の使用許可を願い出たことがきっかけとなり、マーケットの建設が進んだ。豊島師範学校の土地は一九四八年三月末までという使用期限つきで借地されることとなったが、店でもあり住居でもあったマーケットから営業者・居住者が立ち退くことは難しく、期限がきても立ち退きは進まなかった。他方で公道上には多くの露店が並んだ。東口では駅前と大通り沿いの映画館の前に、西口では豊島師範学校の焼け跡に建ったマーケット周辺に並んだ。池袋のヤミ市は西口も東口も多くの人で賑わい、池袋の発展のきっかけとなっていくが、戦後の都市計画が進むなかで、両者は大局的な変遷をたどることになる。これについてはまた次回としたい。



＜著者プロフィール＞

1986年岐阜県生まれ。東京理科大学工学部建築学科助教。著書に「戦後東京と関市新宿・池袋・渋谷の形成過程と都市組織」などがある。雑誌「商店建築」で「東京ヤミ市建築史」を連載中。

図書館イベント情報

各図書館の連絡先

- 中央図書館 3983-7861
- 池袋図書館 3985-7981
- 駒込図書館 3940-5751
- 目白図書館 3950-7121
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 千早図書館 3955-8361
- 上池袋図書館 3940-1779
- 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

★…児童・あかちゃん向け ☆…子ども読書の日スペシャルおはなし会 ●…一般向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	4月	5月	6月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 14:00	最終日曜日 10:30 11:30	☆14日・おはなし会※ 14:00~15:00	★5日・おはなしこうさく会 14:00~14:30 ★26日・おはなし会(池袋親子読書会) 14:00~15:00	
駒込図書館 こまちゃんへのや (※印は 地域文化創造館)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00※	☆7日・青空おはなし会@駒込公園 14:30~15:15 ●21日・大人の工作会 「春のハーバリウムをつくろう※」 14:00~15:30	★11日・生物多様性スペシャルおはなし会 14:30~15:15 ★23~25日・ぬいぐるみおとまり会(幼児)	●9日・女子栄養大学講師による講座※ 14:00~15:30 ★27~29日・ぬいぐるみおとまり会(小学生)
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 15:30	第3火曜日 11:00	☆17日・おはなし会 15:30~16:00	●19日・巣鴨キネマ 14:00~16:00 ★29日・ほんのじかん こうさく会 15:30~16:00	★19日・ほんのじかん おおきいほんの日 15:30~16:00
上池袋図書館 おはなしの部屋 (※印は地下ホール)	水曜日 15:00	最終水曜日 11:00※	●7日・さくら祭り(リサイクル本展示)@さくら公園 11:00~14:00 ☆13日・おはなし会※ 11:30~12:00 ★27日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30	★1日・生物多様性スペシャルおはなし会※ 15:00~15:30 ●4日・東アジア映画会※ 13:30~15:30 ★25日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30	★8日・ぬいぐるみおとまり会※ 15:00~15:30 ★11日・本のお医者さん※ 15:00~16:00 ★22日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30
池袋図書館 ワークルーム (※印は区民集会所)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00	★4日・図書館へおいでよ! 14:30~15:30 ★13日・こうさく会 14:30~15:30 ●15日・ハンドメイド倶楽部※ 10:00~12:00 ☆27日・おはなし会※ 14:30~15:30	★11日・こうさく会 14:30~15:30 16日~29日・子ども読書感想画展 ●20日・俳句会※ 10:00~12:00	★8日・こうさく会 14:30~15:30 ●17日・ハンドメイド倶楽部※ 10:00~12:00 ★29日・よんでみよう!やってみよう!かかぐの本※ 14:30~15:30
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 15:00	第1水曜日 14:00	☆27日・「赤い鳥」おはなし会 14:00~14:30	●12日・講演会「赤い鳥と童話誕生」 14:00~15:30 ★18日・目白の森と生物多様性 14:00~15:30	★8日・かかぐこうさく会 14:00~15:30 ●22日・大人の調べる学習講座 14:00~15:30
千早図書館 視聴覚室	水曜日 (第3を除く) 15:30	水曜日 10:30	☆21日・おはなし会 15:30~16:00	★19日・ほんどこ おたのしみ会 15:30~16:00	

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

☆「子ども読書の日」スペシャルおはなし会のご案内☆

4月23日は「子ども読書の日」です。各図書館ではこの日を記念して、子どもたちが図書館に親しみ、本を読む楽しさにふれられるように、スペシャルおはなし会を開催します!詳細は、各図書館へお問い合わせください。

「子ども読書の日」は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため(同法第10条)」に設けられ、4月23日が子ども読書の日に定められました。

東アジア文化都市2019豊島 特集展示 開催中

東アジア文化都市とは、日中韓の3か国から、文化芸術による発展をめざす都市を毎年1都市選定し、年間を通して多様な文化芸術イベントを開催し、3か国の文化交流を図る国家的プロジェクトです。

この開催を記念して、各図書館で日中韓の文化にふれる楽しいイベントや特集展示を実施していきます。



中央図書館4階特集展示コーナー「東アジアの祭りと歴史」

東アジア文化都市2019豊島 里中満智子氏特別講演会 ー日本のマンガはなぜ世界に広まったかー

講師 マンガ家 里中満智子氏
日時 6月22日(土) 午後2時~3時30分
会場 あうるすぽっと会議室B
申込 往復はがき(※)
受付 5月11日~31日消印有効
定員 100名(超過した場合は抽選)
その他 参加無料、手話通訳あり(対象:図書館利用者カード登録者)
展示 5月25日(土)~7月25日(木)



古典文学講座「源氏物語と仏教」(全8回)

講師 大場朗氏(大正大学名誉教授)
日時 原則第3木曜日 午前9時30分~11時30分(初回5月16日)
会場 中央図書館5階会議室
申込 往復はがき(※)
受付 4月11日~25日消印有効
定員 35名(超過した場合は抽選)
その他 年間500円(対象:図書館利用者カード登録者)



※ 特別講演会、古典文学講座について ※

【申込】 往復はがきに参加する行名、氏名・ふりがな・図書館利用カード番号・住所・電話・FAX・Eメール記入
【送り先】 〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル5F
【問い合わせ】 中央図書館企画調整グループ 電話:3983-7861 FAX:3983-9904 メール:A0027900@city.toshima.lg.jp

予告 文学講座(前期・全4回) ~読んで観る!映像・舞台原作の世界~

講師 後藤隆基氏(早稲田大学演劇博物館助教)
日時 6月8日(土)より(原則第2土曜日) 午前10時~正午
会場 中央図書館5階会議室
申込 電話・FAX・メール・直接来館
定員 35名(5月7日(火)より申込受付)
その他 参加無料、課題本は各自用意してください。

予告 「音訳ボランティア養成講習会」

視覚に障害のある方のための音訳率仕活動に参加できる方を養成する講習会を開催します。終了後は、音訳ボランティアとして「ひかり文庫朗読会」へ参加し活動していただきます。詳細は6月の広報としま等をご覧ください。

開館時間	中央図書館	駒込・上池袋・千早図書館	巣鴨・池袋・目白図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
平日 午前10時~午後10時 土日祝 午前10時~午後6時	●駒込・上池袋● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時 ●千早● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時	●巣鴨● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時 ●池袋・目白● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時	平日 午前10時~午後7時 土日祝 午前10時~午後5時	

○は土日祝の開館時間
■は休館日

4月	5月	6月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ 15 16 17 18 19 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱

図書館カレンダー

特別整理等休館日のお知らせ

下記の日程で休館します。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 千早図書館… 5月7日(火)~11日(土) 5月7日は定休日です
- 駒込図書館… 5月13日(月)・14日(火)
- 上池袋図書館… 5月20日(月)・21日(火)
- 巣鴨図書館… 6月3日(月)~7日(金) 6月3日は定休日です
- 池袋図書館… 6月10日(月)・11日(火)
- 目白図書館… 6月17日(月)・18日(火)
- 中央図書館… 6月24日(月)~30日(日)

また、千早図書館は空調設備工事のため休館があります。詳しくは、広報等でお知らせいたします。

編集後記

東アジア文化都市事業がいよいよ始まりました。「はらはら、どきどき、文化がいっぱい。」なイベントが盛りだくさんなので、参加してみたいと思います。中央図書館の東アジア文化都市・中国西安展示もご覧ください。(狩)